

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300119		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家帝塚山(1)		
所在地	大阪市阿倍野区帝塚山1丁目10番地7		
自己評価作成日	令和3年3月9日	評価結果市町村受理日	令和3年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家ではたのしくらすを目指して地域のボランティアの方や地域の人ののかかわりを大切にしています。現在コロナで施設内でしか行事ができていませんがその中でも地域の方とリモートを通じて関わりをもつことをして日々の暮らしに変化を持たせてたのしみを持っていただくように職員毎日工夫しています。そこが一番のたのしい家帝塚山のアピールしたいところです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2792300119-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは職員間で話し合いながらチームケアを大切に利用者の笑顔に繋がるよう日々の支援に取り組んでいます。コロナ禍で地域との交流や外出等が難しい状況ですが、地域の店の利用やこれまで交流していた小学校とはリモートで会話したり作品を玄関まで届けてもらう等交流の継続を行い、ドライブで万代池等馴染みの場所をまわったり、畑や駐車場での外気浴をもらっています。またホーム内で季節を感じてもらえるよう行事を工夫して行ったり、日々の中で体操や笑いヨガ、身体を動かすレクリエーション、歌やカルタ等を取り入れ楽しんでもらっています。また職員に看護師の配置があり24時間連絡可能な体制で協力医とのスムーズな連携が図られると共に看取り支援についても家族の思いにそってホームで最期まで過ごせるよう支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全員で理念を作り理念を共有するために玄関に掲示して朝の申し送りの時に読み合わせするようにしている。	法人理念の下ホーム独自の理念を掲げ、玄関に掲示すると共に朝の申し送り時に読み合わせをし意識付けを行っています。また新しい職員には面接の時から理念に込められた思いを説明しています。会議の際にはチームケアへの取り組みや一人ひとりに向き合うケア、地域の一員としての暮らし等を大切に話し合い実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの前は散歩や買い物などで地域の店などにいけていたが現在は外にでれていないためなかなか地域の交流が難しくなっている。	コロナ禍で地域との交流が難しい状況ですが、リクエスト食等ホームで食事を準備する際には弁当屋や寿司屋等近所の店を利用しています。またこれまで交流していた小学校とはリモートで会話をしたり、作品を玄関まで届けてもらい、町会長には運営推進会議の書類を渡す等出来る範囲での交流の継続を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの前は近くの小学生が訪問していたが現在それができず、リモートでの交流のみになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの前は2か月に1回包括、町会長、ご家族様に参加して運営推進会議していたが現在は職員のみで行っている。	会議はコロナ禍のため今年度は職員のみで行っており、以前は家族や町会長、地域包括支援センター職員の参加を得ており、参加者には利用者の状況やホームの活動、事故やヒヤリハット事例等の書面を持参しホームの現状を伝えています。地域包括支援センター職員からは口頭で評価をもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料、議事録を提出して意見頂いている。	コロナ禍で訪問は最小限となっていますが運営推進会議の議事録や書類提出の際に行政窓口に向いたり、不明な点があれば電話で聞いています。またマスクや消毒液については市から配布を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とフロアの施錠行いが日々施錠しないようにするためにはどうしたらよいか職員同士で考えて話あっている。法人内でもGH会議で身体拘束している事例を検討、検証している。	身体拘束に関する研修が年に2回あり、リモートで代表者が受け職員に伝達すると共にチェックリストを行い、身体拘束適正化委員会の内容も伝えています。利用者に待ってもらう場面があれば具体的に説明するように管理者から伝えており、安全の為センサーマットを使用している方については必要性をカンファレンスで検討しています。玄関やユニット入口の鍵は施錠していますが外に行きたい様子があれば畑や駐車場で気分転換を図ってもらっています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修計画の沿って年2回の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修計画に沿って受講している。後見人制度を利用されているご利用者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族様に入居前に重要事項などを十分説明して契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内で年1回顧客魔族度調査を行いご家族様からの意見をいただいて反映させている。	日頃の関わりの中で利用者の外出希望や食べたい物等要望を聞いた場合は野菜を育てている畑や駐車場に出たり、リクエスト食の際の献立に反映しています。家族には毎月利用者の暮らしぶりを手紙で伝え、訪問時や電話、満足度調査アンケート等で家族の意見を聞いています。面会についての要望が多くガラス越しに顔を見てもらっていましたが11月からリモートでの面会が可能になっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンス施設全体会議を実施して職員の意見を吸い上げている。法人でも従業員満足度アンケートを年1回行いアンケート悪い施設には再アンケート行っている。	毎月ホーム全体の会議があり掃除についてや業務分担について意見を出し話し合っています。またをユニット毎のカンファレンスでは利用者についての話し合いをしています。行事については職員が担当し主体的に行っています。年に1回管理者による面談の機会がありますが、日頃の中でコミュニケーションを図ると共に気になる事があれば声を掛け随時の面談を行う事もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度、誰のび制度自己申告制度、前向きな思考を持つコーチング研修、ほめあう社風を作るための褒めカードがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が内部の研修を受ける機会を確保している。キャリア段位制度もある。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規開設施設の職員が当施設へ研修にきたり法人内で管理者の会議や研修、勉強会を実施している。介護職員に対してユニットリーダー研修がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者がアセスメントを行い本人や家族様が困っていることや思い等をききとり施設のできごとやできることも踏まえて信頼関係構築につなげていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者がアセスメントを行い本人や家族様が困っていることや思い等をききとり施設のできごとやできることも踏まえて信頼関係構築につなげていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での居宅や訪問介護、認知デイなどと連携とり支援している。包括やオレンジチームと連携をとることができる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみなどご利用者様のできることはできるだけしていただくようにする。ご本人のできること(役割)を増やすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などの付き添いをお願いしており緊急時の判断をまかせています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、行っていた場所や在宅でうけられていた訪問リハビリや訪問診療を継続している。ご家族様より情報いただいてご本人より聞き出す努力をしています。	コロナ禍で面会や外出が難しい状況ですが、ドライブで自宅近辺や馴染みの万代池に行ったり、在宅時からの訪問リハビリを継続している方や家族とこれまでのかかりつけ医に受診に行く方もいます。また電話の取り次ぎや年賀状や暑中見舞いを出す際の支援を行う等関係継続の支援を行っています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士協力して家事を手伝えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去してご夫婦での生活をはじめられたかたに訪問や電話をしている。緊急時には小規模でのサービス提供すすめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らしに寄り添ったケアをしている。コミュニケーション困難な方にはご家族様から情報もらい支援している。	入居前に自宅や病院、施設等に出向き本人や家族と面談を行い、関係者からも情報をもらい生活歴や趣味、要望、身体状況等を聞き取りフェースシートにまとめ思いの把握に繋げています。入居後は知り得た情報はフェースシートに追記したり介護記録や申し送りノートに記載し、把握が困難な場合は日々の支援の中でその方の思いを汲み取りながら職員間で情報を共有し本人本位の検討に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様から情報いただいてこれまでの生活歴、なじみの生活を継続していただけるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い体調にあわせた生活をすごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各ユニットでカンファレンスを行いよりよく暮らすために職員間で話し合いをしている。	本人や家族の意向、ケアチェック表でのアセスメントを基に介護計画を作成し、計画は状況により3か月から6か月で見直しをしています。毎月利用者の状況について話し合い、1~2か月毎にモニタリングを行い、見直しの際は再アセスメントと看護師も参加のサービス担当者会議を行い、本人や家族の意向を確認しています。また必要に応じて主治医の意見を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録をつけており職員間で情報共有している。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ前は外出を家族様としていたが現在それができずにいる状況である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は近くのスーパーに買い物しに行っていた。現在は外出できず施設内での生活になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターと施設ナースが連携とり健康管理に努めている。なじみのかかりつけ医を継続されている方もいます。	入居時に希望を聞き、これまでのかかりつけ医を継続している方もおり往診を受けたり家族と受診しています。協力医による往診が月2回あり、看護職員による日々の健康管理を受けており、24時間体制で看護師に連絡可能で医師に指示を仰いでいます。指示を受けて専門医へ受診する場合は家族や職員が付き添い、希望に応じて歯科の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携しながら日々の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に対応していただける病院確保している。入退院時には必ず施設ナースがお見舞いにいき情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様の意向を伺い重度化や終末期になった時、なりそうなどき話しあいを持ち施設内で看取りケアを行っている。	入居時に重度化や終末期の指針にそって支援出来る事や出来ない事を説明しています。食事が摂れなくなってきた場合等往診時に家族に来てもらい三者間で話し合い、家族の意向を確認し方針を決定しています。看取り支援の希望が多く家族には泊まりや面会等協力を得てカンファレンスで看護師から意見をもらいながらホームで最期まで過ごしてもらえるようチームで支援に取り組んでいます。また年に1回看取り研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の対応の研修を実施している。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回消防訓練行っている。	年に2回消防訓練を行い、通常1回は消防署立ち合いがありますが今年度は独自で行い、通報機の確認や消火器の位置確認、シートで運ぶ練習等を行い意見を出し話し合っています。消防署が来る際には近隣の方に訓練の案内しています。また備蓄は3日分の水やお粥、缶パンの他懐中電灯等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは一人ひとり丁寧に誇りやプライバシーにかかわることは尊厳を大切に对应している。	接遇マナーやプライバシー、認知症等に関する研修の中で学ぶ機会がありチェックシートで振り返りを行っています。利用者へは丁寧に優しい声掛けをし、話をする際は目線を合わせる事を基本に馴れ馴れしくならないよう努めています。プライバシーや声のトーン、希望に応じた同性介助にも配慮し、不適切な場面があれば管理者やリーダー、副主任から注意をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が食べたいもの、飲みたいものを聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人それぞれのペースにあわせて希望に沿った支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服、入浴後に着る服など本人の希望を聞いたり選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストを聞いて献立をきめている日を月2回もうけている。	旬や暦の上での行事食等配慮された業者の献立にそって食材が届きホームで調理し、コロナ禍以前は包丁で切ったり食器洗い等してもらっていましたが、現在は野菜の皮むきや下膳を行ってもらっています。利用者の希望に合わせて月に2回リクエスト食としてホームで作ったり寿司等を買に行き、畑の野菜で調理し、また手作りおやつ等食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった食事量、食事形態で栄養バランス確保している。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援しています。定期的に訪問歯科、口腔ケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、出来るだけトイレできるだけトイレで排泄できるように支援している。	全利用者の排泄を記録し、個々にパターンを把握しながら座位確保が可能な場合は日中はトイレでの排泄を支援しています。夜間は誘導やポータブルの使用、おむつに変更する等個々にそった対応を支援しています。布の下着で過ごし自立している方もおり現状維持に努め、退院後は様子を見ながら徐々に元の状態に戻れるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取のチェックしたりヤクルト等の乳製品の提供したり毎日の口腔体操、ラジオ体操、笑いヨガ体を動かす時間作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴している。一番風呂の好きな方、身体状況にあわせて夕方が適している方など本人の状況にあわせて入浴介助している。	入浴は週に2回支援し、午前中から夕方までの時間帯で支援し、希望の時間を選んで入ってもらっています。湯は一人ずつ入れ替え、好みの湯温に合わせたり、シャンプー等持参する方もおり、菖蒲や柚子等の季節湯や毎月入浴剤でかわり湯をしたり、マンツーマン対応でゆっくり話をしながら入ってもらっています。入浴を断わる方には声掛けの工夫や職員を変更し、次の日に変更する等無理無い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビをみたりご利用者様同士で話す時間のあとで眠られたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についての理解は浅いです。処方された薬をもれなく服用していただくようにつとめています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として洗濯もたたみや装飾品作成などしていただいています。楽しみや気分転換として季節ごとの行事やレクリエーションを実施しています。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は散歩などもしていましたが現在では外気良くのみであまり外に出る機会がすくなくなっています。	コロナ禍で外出が難しい状況ですが、ドライブで万代池や近くに行ったり、駐車場で夏祭りをしたり弁当を食べる等外に出る機会を大切にしています。日々の中ではホームの畑で水やりや草抜き、野菜を見に行ったり収穫等行い、駐車場で外の気浴をしたり、家族や職員と病院に受診に行く方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で持っていないと落ち着かない方は持っています。ご利用者様のおこずかいとしてお預かりしている現金があり必要なもの希望するものに使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ手紙のやりとりの支援しており年賀状や暑中見舞いをご家族様にだしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的で不快な気持ちにならないような環境整備に努めています。	リビングには利用者と一緒に作成した季節毎の作品や雛人形等季節の飾り付けを行い、時々花瓶に花を生ける等季節を感じてもらっています。座席の配置は利用者の相性や個々の距離を保つことに配慮しています。換気を徹底し、利用者の体感や温湿度計を確認しながら温度調節を行い、加湿器や空気清浄機を置き、また掃除や手すりの消毒液は一日3回行い居心地良く清潔な空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は自由にすごしていただいています。居室では一人ですごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだダンスや好みのものを持ちこんでいます。入居後、レクや行事で作成したものや写真を飾っています。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、使っていた布団やテレビ、ダンス等を持参し家族が配置をしています。また仏壇を置いたり、家族の写真を飾る等大切にしている物を傍に置いている方もいます。現在はいませんが習慣等に合わせて希望があれば布団で休む事も可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の部屋の張り紙や目印つけています。		